

オリジナルのローラーを手にする佐々木 裕治さん

グラデーションプロ
株式会社
(大崎市)
代表取締役 建築塗装工
佐々木 裕治さん

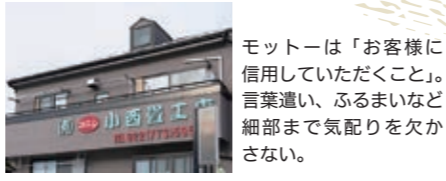
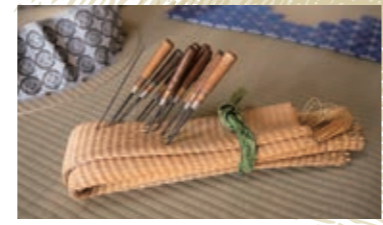
Sasaki Yuji
プロフィール
1960年生まれ。建築塗装を学び、塗装店で修行後、父の経営する有限会社柏工芸に入社。在籍しながら2008年にグラデーションプロ株式会社を設立。(2017年に柏工芸を吸収合併)



2023年8月に社屋を移転し
研修会スペースを設けた

宮城の名工

宮城県は、長年にわたり同一職業に携わり、優れた技能により業界者に「宮城県卓越技能者（宮城こでは昨年度の表彰者の中から、小西良彦さん（畳工）を紹介します。



有限会社コニシ 小西畳工店
(仙台市)
代表取締役 畳工
小西 良彦さん
Konishi Yoshihiko

プロフィール
1959年生まれ。高校卒業後、料理人を経て、桐ヶ窪畳商工株式会社へ入社。1987年に小西畳工店を設立。仙台市技能功労章など受賞多数。2015年、全技連マイスター認定。



弁理士を使わず
独学で出願し取得した特許証



特許技術伝授のための研修会の様子

グラデーションプロ株式会社
所在地 大崎市古川鶴ヶ埵字新江北110番
TEL 0229-25-7650
URL http://www.gradation.co.jp

針と糸だけでつくる
「おもしろさ」
若い世代に
ものづくりの魅力を
伝えたい

高校卒業後、和食の料理人をしていましたが、23歳の時に声をかけていただき、桐ヶ窪畳商工株式会社に入社しました。当初は職人としてではなく、配達などの手伝いをしていました。気が付けば畳製作の道へ。5年間の修業を経て、28歳の時に独立し、開業しました。最初の一年は働きづめでしたが、それでも、畳製作が大変だと感じたことはありません。針と糸で一枚の畳を作り上げていけることが面白いなど今でも思います。難しい作業の一つは、部屋の寸法を測り、その数値に合わせて作り上げることです。部屋の形というのは、必ずしも厳密に直角な長方形ではありません。角度を合わせ、素材の種類によって数ミリずつ変わる仕上がりサイズを計算し、仕上げる。作った畳がお客様の部屋にぴったりと収まり、天然イグサの香りが部屋に満ちていくと、本当に気持ちがいいですね。

ことはもちろん、体験を通して「自分はこのことができるのか」「自分ですごいな」と子どもたちに気づいてもらうことを目的に活動しています。楽しそうな姿を見ると、やりがいを感じます。今後はもっと畳文化について若い世代に興味をもってもらう、畳製作の職人が増えたらうれしいですね。

最近、小中学校やイベントでイグサを使った小物製作体験の活動も行っていきます。すごい自分を実感できることがものづくりの楽しさの一つだと考えており、畳の魅力を伝える



一台の縫着小型ミシンから始まった作業場

有限会社コニシ 小西畳工店
所在地 仙台市泉区天神沢1-16-51
TEL 022-773-5956
URL https://konishi-tatami.jp



機械化が進んでも、手作業を大切にしている小西 良彦さん

悩みや諦めをなんとかしたいという想い「おもしろい」からもものづくりを続けていく

塗装業に就いて約45年になります。20年ほど前、国交省からコンクリート打放し建物の補修工事を受託し、有名なスタジアムを手がけた補修業者に部分的な依頼をしましたが、時間と費用がかかった割には仕上がりがいいまいちで。コンクリートが持つグラデーションのような美しさがなかったのです。当時、塗替えは単色での工法しかなく、外壁材の高意匠性サイディング板の塗替えにおいて、意匠性が損なわれてしまう問題がありました。コンクリートの綺麗な模様をどうしたら出せるのか、ベニヤ板に塗装を繰り返しているうちに、偶然「ふわっ」とコンクリートの模様がで、それをヒントに、色々な

スポンジで試作してオリジナルのローラーを開発。美粧性に優れ、かつグラデーションを有する多彩模様を形成できる工法を確立し、特許を取得しました。さらに特許技術と、塗料メーカーと共同開発した塗料を組み合わせたことで、意匠性の復元はもとより、耐久性や防藻・防カビ性などの性能も高められるようになりました。

現在、この技術を全国の塗装技術者に伝授する研修も行っていきます。「おもしろい」から続いているものづくりですが、悩みや諦めをなんとかしたいという「想い」がないと続きません。活路を見出すものづくりを続け、塗装業界の発展に繋がれたらと思っています。